

## 第1回 川越市総合教育会議 議事要旨

- 1 開催日時** 平成27年5月21日(木) 午前10時30分～午前11時50分
- 2 開催場所** 川越市本庁舎7階 7AB会議室
- 3 出席者** 川越市長 川合善明  
教育委員会委員長 梶川牧子、委員長職務代理者 長谷川均  
委員 原田由美、委員 長井良憲、教育長 伊藤 明

### 4 会議の概要

#### 1 開会

#### 2 挨拶

昨年6月に成立した「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正に伴い、首長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有し、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、総合教育会議が設置された。子ども達の健やかな育ちや学びをどのように支えていくのか、この会議の中で皆様と一緒に議論を深め、共通の認識を持ち、協力して教育環境を整えていきたい。

#### 3 協議事項

##### (1) 総合教育会議について

ア 川越市総合教育会議設置要綱の制定について

イ 川越市総合教育会議の傍聴に関する要領の制定について

事務局から上記ア、イの案について説明があり、案のとおりとすることで決定した。

##### (2) 大綱の策定について

##### (3) 本市の教育を取り巻く当面の課題について

事務局から大綱の策定について資料3に基づき説明

大綱の策定にあたり、現在各委員が感じている問題点、解決すべき課題などについて共有するため、協議事項(2)と(3)を合わせて協議。

##### 【意見の概要】

(●・・・市長 ○・・・教育委員)

##### 《いじめについて》

○共有すべき課題としてまず「いじめ」について取り上げたい。川越市においてはいじめに対する取組もきめ細かく行われており、現場では沈静化しているとの報告を受けている。総合教育会議はいじめなどをきっかけとする緊急事態に対応すべき措置も行うこととなっている。国を挙げてのいじめ対策を更に適切なものにし、いじめの撲滅に協力していきたい。現場としてどのような対策を更に講じていくべきな

のか、議論を深めたい。またいじめ問題は対応や措置の他に、いじめが起きる前の啓蒙運動が大切だと考えている。現在教育委員会では、学校工事を施工する建設業界に協力をいただき、建設現場の板囲いにいじめ撲滅キャンペーンのシールを貼っていただくとしており、前向きに検討いただいている。数年前に作成した際は「ストップ」が英語で表記されており、白黒だったがストップをカタカナに、また、絵をカラーにすることで子どもたちの目につきやすいようにした。

- いじめの対策を学校現場だけでなく、地域の、また川越市民の問題として捉えたい。市では青少年問題いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題対策委員会、いじめ問題再調査委員会が立ち上がったので、この3つを教育委員会を中心にきちんと動かしていくことが大切だと考えている。
- 学校だけでなく、地域も関わりいじめを撲滅していかなければいけない。また、家庭でも家庭教育の一環として子どもの変化に注意を払い対応していただきたい。
- 現在のいじめはラインなど、教師や親が追いつかないツールを使った子ども同士のやり取りがあり、それがいじめの大きな原因の一つとなると考えている。ラインは大人がチェックをするのが難しいということは分かっているが、学校現場において、川越市だけではなく国を挙げて対策をしていかなければいけないと考えている。
- インターネット、ライン等の問題は大人には分かりにくく、介入しにくい。
- インターネット上のラインやメール等は連絡を取る上でとても便利である。小学生で3~4割、中学生以上で6割位が携帯電話を持っているという現状がある。持っている子ども同士の他、持っていない子とのコミュニケーションの問題も出ていると聞いている。学校には持ち込みは禁止だが、メールに即答しなければ仲間外れになるというような問題もあるようだ。
- 数年前に教育委員会でネットパトロールをしていたと思うが、現在はどうなっているのか。
- ネットパトロールはここで報告件数が増えている状況がある。ネットパトロールで対応すべきものは各校に連絡し、対応を図っている。現在のいじめに対する取組としては、平成26年11月にいじめ防止等のための基本方針を策定した。これに基づいた対応として、児童生徒・保護者に対するアンケートを年2回実施している。ネットパトロールやいじめ相談の電子窓口も続けて実施している。初期対応や組織的対応に関する教職員研修を実施、教育研究会にて児童生徒が主体となったスローガンを決める等いじめ防止の取組、関係機関と連携をしていじめの防止に取り組んでいる。附属機関のいじめ問題対策委員会を昨年12月に条例制定をし、3月に第1回の会議を実施した。現状の取組について報告し、今年度は第1回目を7月に実施予定で、アンケートを踏まえた各学校の取組を報告する。青少年問題いじめ問題対策連絡協議会も今年度実施し、関係機関に情報提供し、いじめをなくす取組をしていく。
- いじめの問題は大人が全部いじめ対策をするのではなく、子ども達自身が働きかけ、取り組んでいくことも重要だと感じている。
- 授業の一環として、先生が教えるのではなく、子ども達の間で話し合うといったことは実際に行われているのか。

○市内の学校をブロックに分け、児童生徒の連絡協議会を設け、そこで話し合い、子ども達がスローガンを決めるなどしている。

●スローガンを決める他にも、いじめの場面を目撃した時に周りの子どもがどのような対応をするべきかというようなことを子ども達の中での議論が必要だと思うが、行われているのか。

○各学校で学級単位で、いじめをテーマとした話し合いのなかで行われている。

#### 《川越を教育都市にすることについて》

○川越を教育都市にしたいと考えている。実現するための3本の柱を掲げており、一つ目に学力の向上、二つ目にスポーツが活発であること、三つ目に児童生徒が安全で安心して学べる環境整備をすること、そして教師等の質の向上、スポーツ指導者の育成などを考えている。中でも児童生徒の学力向上は極めて重要だと認識している。教育委員会では川越市小中学校学力向上プランを作成し実践することで学力向上を図っている。今後一層学校現場、家庭、地域が一体となって学力の育成を図る必要がある。教育委員会として、教育都市を実現できるようさまざまな施策に積極的に取り組んでいきたい。

○市立の高校があるということは大変恵まれている。これまでの伝統を損なうことなく、全国に発信できるような学校になって欲しい。また、少子化や塾通いにより子ども達が縦割りで遊ぶ機会がなくなっている。小中高の連携で学ぶ機会を持って欲しい。

○教育都市にするということについて賛成する。川越は小江戸と呼ばれ、文化財があり観光地として外国人の方も来る。身近に学びの場がたくさんあるので、色々なところと連携して進めていきたい。

○小学校で英語の授業が始まっている。英語を学ぶことは大切だが、経験から言って、基礎となる日本語がしっかりしていないと中途半端になってしまう。日本語の教育に力を入れてほしい。

●英語教育に関しては方向性としては小学校から教科化をするのか。

○小学校は5、6年生から外国語活動、4年生までは国際理解というかたちでやっている。今後は国が学習指導要領を改定し小学校は3、4年生から外国語活動、5、6年生は教科化される。中学生・高校生は英語の授業は全て英語で行うという方向で進む。英語が教科化となった場合小学校の教員は英語の免許を持っていないので、当面の間は英語の専任の教員を配置したり、外国語指導助手を配置するなどの対応になる。また、教材や教員の研修といったものを中核市の会議で国への要望という形で検討している。グローバル化に対応した英語教育ということで、一方日本国民としてのアイデンティティ、文化や歴史、伝統を大切にするという方向で進んでいる。

●国語をしっかり学ぶということは大切だと思う。

○外国に出たり外国人と会話するとき、日本の文化、歴史、宗教を聞かれる。自分なりの解釈で答えられるかということが問われる。そこまでできて初めてグローバルな人間と言えるのではないかと認識している。川越には歴史的な文化財があるのでそれを踏まえて勉強して行って、日本語もしっかり学んでいかないとグローバルな人間にはなれないと考える。

- 外国に住んだことがある人はよくそういったことをおっしゃる。自分の国の歴史や文化の認識がしっかりないと外国の人と太刀打ちできないということだろう。
- 学力向上の為に取組を行っているが、課題がないわけではない。一つ目は小学校 6 年生の国語と算数の平均点が全国を下回っている。原因はさまざまな要因があるので分析把握して対応し平均点を上げていくこと。二つ目は教師の勤務時間が長くなって教師の負担がますます重くなっているという現実がある。教育委員会では間接業務である書類作成や会議の見直しを図って教師の負担軽減を図ることにより児童生徒と向かい合う時間を確保する、そういったことで学力の向上の他にいじめへの気づきなどに貢献するだろうと考えている。
- 学力のところで学力学習状況調査の話があったが、全国の学力調査は小学校 6 年生の国語と算数、中学校 3 年生の国語、数学、今年度から埼玉県で小学校 4、5、6 年生が国語と算数、中学校 1 年生が国語と算数、中学校 2 年生と 3 年生が国語、数学、英語というかたちで学力調査を始めた。一人ひとりの経年変化をみる調査が今年度から始まった。昨年度の結果が小 6 が全国を若干下回り、中 3 が若干上回った。これを全国平均以上には持っていきたいと考えて、全教科から学力向上検討委員会という組織を立ち上げ、学力の分析と指導の工夫・改善という取組をしている。川越市については知識、技能についてはよいが、知識・技能を活用した思考力、表現力、判断力がやや劣るので、ここを重点に教育委員会と学校が問題を共有して取り組んでいる。子どもたちの体験活動が不足していると感じる。川越の特色だが、公民館区で子どもサポート委員会を立ち上げ、土曜日や日曜日に子どもサポート事業を展開している。また、学校応援団といって授業やサポートに入らせていただいている。教育活動に成果を上げているので更に充実させていきたい。校種間連携は幼稚園、保育園、から小学校 1 年生への接続がうまくいくように連絡懇談会という組織を作り取り組んでいる。小学校から中学校、中学校から高校については毎年研究指定をして校種間連携教育をしているのでこれを更に充実させていきたい。
- 川越を教育都市にする 3 つの柱の学力について色々と意見が出た。スポーツ振興はいかがか。中学校の特に運動部の活動が低迷していると聞いたが。
- 過去には部活に全員加入するという制度だったが、現在は学校以外にクラブに入っで活動することもあるため任意制になっている。競技力では全国大会に出場するような学校はない。外部指導者を入れたり競技力の向上にも努めていきたい。
- スポーツを活発するには、施設の充実は不可欠だが、ソフト面では指導者の育成が一番大事だと思う。よい指導者を入れることが活性化させるための近道だと思っている。市立高校では文化スポーツの特別推薦枠を生かして活性化を図るのが重要だと考える。
- 市立高校の特別枠は、学校推薦のみである。現在、志願者の倍率が高くなっているため、一定の学力を持っていないと入れなくなっている。

#### 《しつけについて》

- 家庭におけるしつけ、教育について話したい。家庭におけるしつけができていないということを感じる。教育力の低下があると考え。共働きの家庭も多くなり、子どもに目を配る時間が少なくなっている現実があるが、家庭と地域で連携して基本

的なしつけや教育をできないかなと日々感じている。

- 学校教育は限られた時間で行わなくてはならず、できることに限度がある。学校は、学問つまり知・徳・体、社会生活を他者との触れ合いの中で学ぶところである。家庭の役割とは個としてのしつけを教えることだと思う。最近働いている母親が多いので家庭教育学級を開いてもなかなか集まらないという現状だが、繰り返し続けていくことが大切である。川越城下で1625年に生まれた人物が書いた古文書の中に「悪しき子を持つことは子の誤りにてなく候。親おやの誤りにて候」と書きつけられているが、これは平成の時代でもある意味変わらないことと感じている。
- 極端な例として思い浮かんだのは半年前に刑事裁判になった祖父を殺してしまった子どもが母親から悪いことを教えられるような環境で育ってきた。その子どもの味方になり寄り添っていい方向に向かわせてくれるような環境が全くない中で育ってきた子どもが祖父を殺したということで裁判にかかったという記事があった。経済環境や貧困層が増えたといった社会問題が指摘されている。家庭のしつけに関連しては問題が広がってしまうが、そういったことも考慮にいれなければならない感じがする。
- 家庭の教育力の高さが、教育水準の高さとイコールだと言われる。フィンランドは家庭の教育力が高いので教育水準が高いと言われている。人口が違うので単純には比較できないが、家庭の教育力が大切だと言われている。親の目の前でリビングで勉強する子どもは自分の部屋で学習する子どもより学力が向上するということがテレビなどで最近よく言われている。しかし、これから女性がどんどん働いていく時代の流れの中で、家庭でのしつけや教育の問題というのはますます難しくなると思う。社会でみるという考え方もあるが、女性の社会進出を考慮するきちんとした施策も必要だと思う。
- 貧困のせいにするとはそれですべてが終わってしまうが、しつけは社会的な面とそうでない面があると思う。行政としてはさきほどの問題意識も踏まえた上で家庭のしつけや教育についても考えていかななくてはいけないのかなと考えている。
- どの時代にも複雑な家庭や親として資格のない人間はいる。教育委員会や学校、地域、行政が一体となって子ども達を見守ることが大切だと思う。

#### 《歴史文化都市川越について》

- 歴史文化都市川越について話したい。川越市には指定文化財、伝統的建造物群保存地区、景観重要建造物などがある。一番街、喜多院、本丸御殿、博物館などに、タイ、中国、香港、台湾、韓国など海外からも含めて多くの方が観光にお越しになっている。この歴史的に重要な川越という土地を、2002年より「川越今昔ものがたり」という瓦版と本を出して研究してきた。子どもの頃は喜多院の山門や仙波東照宮などの前を通って通学していたが、昔は学校の先生も歴史的なことはあまりお話しなさらなかった。現在の学校の状況に目を向けると、初雁中学では平成16年から10年ほど「川越観光サポート」という授業をやっていると聞いた。目的が二つあり、ひとつは、「地域を知って誇りを持てるようになること」、もうひとつは「知らない人と接することにより自信を持てるようになること」となっている。ぜひこのような取り組みを旧市街地の中学校ではやっていただきたい。子どものころから郷土に

誇りを持てる取り組みが必要であると考えている。

●いい取り組みだと感じる。

○初雁中では毎年 11 月に子どもたちが市内の観光名所に複数で分かれて案内をするということを行っている。外国人の方が多くなってきたので、英語だけでなく、中国語や韓国語も含めて勉強していると思う。

○学校教育においては博学連携として平成 2 年に博物館を設置した。小学校 3 年と 6 年が授業の中で「郷土を知る」という、博物館を使った学習をしている。中学校は希望の学校が利用している。子ども会育成会で毎年かるた大会を行っている。これは県の大会までつながっているが、川越市では川越のかるたを使って郷土を知るということを行っている。オリンピックもあるので外国人の方も大勢来ると思うが、英語で案内も出来るような語学力もつけばよいと考えている。

○川越は文化財の宝庫なので成人にとっても生涯教育の一環となるという意味では大変恵まれていると考えている。祖先や育った地域など自分のルーツを知るという事が子供たちの自己形成に大切なことだと考えている。それぞれの地域に古い歴史があるので自分たちの生活している町の歴史を知って成長して行って欲しいと考えている。全校で川越市の歴史の教育を取り入れて欲しい。

○川越は「小江戸川越」というキャッチフレーズで動いているが、昔は「江戸の母 川越」と言っていた。飯島謙輔さんという方が昭和 20 年代に「江戸の母 川越」というご本を出版されている。また、川越市が、市制 60 周年記念として、大護八郎先生が書かれた「川越の歴史」という本を全戸に配った。そのご著書の中では、「小江戸川越」と「江戸の母 川越」という両方の言い方が出てくる。また、現在 88 歳の長老に聞いたお話では、川越は、昔は「江戸の奥座敷」と呼ばれていたという。つまり、「花のお江戸を見ても、川越まで来なければ江戸を見たことにならなかった」という。川越がどれほど江戸を支えていたかは、川越藩主が、幕府の大老や老中を兼務していたということ踏まえれば、よくわかる。そして、それを子どもたちに教えれば、自分の住む川越という町の歴史を良く知ることになり、自信や誇りにも繋がる。「世界に誇れる『江戸を作った川越』」、という視点でご指導いただきたい。

●色々な発言をありがとうございます。教育委員の皆様はこういった問題について真摯に取り組んでこられたということが伝わってきた。今いただいた意見を参考に大綱を考えていきたいと考えているが教育は課題が多いのですべてを議論することは難しいという現状があるので、体系的に課題などがまとまったものがあればそれを参考としたいという考えもある。現在、28 年度からの 10 年間を計画期間とする第四次川越市総合計画の策定作業を進めているが、総合計画の中でも教育分野の重要課題については体系的に取り組んでいる。総合計画とは別に教育委員会独自でも体系づけた計画があると思えますが。

○川越市教育振興基本計画が総合計画と同じく、平成 28 年度からの次期計画に向けて再策定の作業を行っている。今年一年が現在の計画の最後の推進期間だが、構成としては基本理念と 3 つの目標、5 つの方向性が示されており、その下に本市の教育行政で重要な課題を選択し 39 の施策を挙げている。

<教育振興基本計画概要版に基づき説明>

生きる力と学びを育む川越市の教育を基本理念とし、次代を担いたくましく生きる児童生徒の育成、ふれあいと思いやりのある地域社会の実現、心豊かで生きがいを持てる市民社会の実現という3つ目標を立てている。最終年度、まとめの年ということで取り組んでいる。また総合計画と合わせて次期計画を策定している。

- 教育委員は毎月定例会を開催し、様々な議案を審議し現場の報告を受けている。この教育理念や目標の実現に向けて教育委員会の全職員が一団となって邁進していると感じている。
- この会議の冒頭でお話ししたが、大綱という位置づけで首長が教育の目標や施策の市の根本的な方針を定めるとされている。教育振興基本計画の理念についてはたくさんの方々によって十分に検討されたものであると考える。国の方針でもこの教育振興基本計画をもって大綱としていいとされている。この考え方からするとこれらの理念が川越市の総合教育会議の大綱の候補となり得ると考えている。次回までに各委員におかれては本市の現状と今後の教育行政の在り方を総合的にご検討いただきたい。現在の教育振興基本計画の理念の部分を参考に私も色々と検討することとし、次回の会議にて決定したい。

#### 4 閉会

以上